

(様式1)

平成28年度試験研究課題設定のための要試験研究問題提案・回答書

(整理番号) 032	提案機関名 畜産技術センター
要望問題名 酪農・肥育経営から生産される牛ふん堆肥の安全な生産手法の開発	
要望問題の内容 【 背景、内容、対象地域及び規模（面積、数量等）】 従来、肥料成分よりは土壌改良効果を期待して牛ふん堆肥の利用がなされてきたが、近年では牛ふん由来の堆肥において除草剤成分の残留による作物の生育障害が報告されるようになってきた。除草剤成分の残留は、海外の粗飼料生産国で当該除草剤の使用が規制されていないことが原因であるが、現在の畜産経営で輸入粗飼料や穀物の使用なしに畜産物を生産することはできないし、堆肥生産においても除草剤成分の残留は避けられない。 そこで、除草剤成分の残留を避ける堆肥生産方法について研究・提案していただきたい。	
解決希望年限	<input checked="" type="checkbox"/> ①1年以内 <input type="checkbox"/> ②2～3年以内 <input type="checkbox"/> ③4～5年以内 <input type="checkbox"/> ④5～10年以内
対応を希望する研究機関名	<input type="checkbox"/> ①農業技術センター <input checked="" type="checkbox"/> ②畜産技術センター <input type="checkbox"/> ③水産技術センター <input type="checkbox"/> ④自然環境保全センター
備考	

※ ここから下の欄は、回答者が記入してください。

回答機関名	畜産技術センター	担当部所	企画研究課
対応区分	<input type="checkbox"/> ①実施 <input type="checkbox"/> ②実施中 <input type="checkbox"/> ③継続検討 <input type="checkbox"/> ④実施済 <input type="checkbox"/> ⑤調査指導対応 <input type="checkbox"/> ⑥現地対応 <input checked="" type="checkbox"/> ⑦実施不可		
試験研究課題名	(①、②、④の場合)		
対応の内容等	堆肥化処理は、病原菌及び雑草の種子が死滅する60℃以上の高温過程を経ますが、当該除草剤成分は高温処理でも分解されない成分で、物理的、化学的、生物的に処理ができないことが明らかとなっています。ご要望のような除草剤成分の残留を避ける堆肥生産方法についての技術開発は、当所での研究対応が難しい状況です。		
解決予定年限	<input type="checkbox"/> ①1年以内 <input type="checkbox"/> ②2～3年以内 <input type="checkbox"/> ③4～5年以内 <input type="checkbox"/> ④5～10年以内		
備考			